

# 絶滅危惧植物スズカケソウの挿し木による栄養繁殖

今林 潔（徳島大学技術支援部 蔵本技術部門（薬学部薬用植物園））

IMABAYASHI Kiyoshi : Vegetative propagation of the endangered plant *Veronicastrum villosulum* (Miq.) T. Yamaz. using cuttings

## 1. はじめに

徳島大学薬学部薬用植物園では絶滅危惧植物の保護活動の啓発と普及に取り組むとともに、現在約 50 種の絶滅危惧植物を維持栽培している。その一環として、絶滅危惧植物スズカケソウの挿し木による栄養繁殖について検討したので報告する。



図1 スズカケソウの花

## 2. 絶滅危惧植物スズカケソウ

スズカケソウ（オオバコ科クガイソウ属）*Veronicastrum villosulum* (Miq.) T. Yamaz. は、環境省レッドリストカテゴリーでは絶滅危惧 1A 類（ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの）である。徳島県ではつるぎ町にのみ生育し、つるぎ町天然記念物にも指定されている。本植物は多年草であり、葉はピロート状の毛が密生し、蔓状に長く伸びる茎を持つ。本園では 7 月～9 月に紫色の小さな花を球状に付ける（図 1）。



図2 発根促進剤使用の C 群（左） 水のみ使用の B 群（中央）  
植物活力剤使用の A 群（右）

## 3. 挿し木による栄養繁殖試験

最適な栄養繁殖条件を見出すため、挿し木に用いる部位と薬剤処理について比較検討した。

令和 6 年 4 月、当園で栽培するスズカケソウの茎部を地上から約 30cm の位置で切り取り、下部（地上から 0~10cm）、中部（10~20cm）、上部（20~30cm）の 3 部位に分けた。この 3 部位を、それぞれ A 群（水のみ）、B 群（植物活力剤 100 倍希釈液処理）、および C 群（発根促進剤処理）として 10 株分ずつ、合計 90 株分準備し、試験検体とした。A 群と B 群では容器でそれぞれ 1 時間浸漬処理し、一方 C 群では発根促進剤を茎の地上側に直接塗布した。これらを十分湿らせた鹿沼土入り黒ポットに挿し、半日陰、灌水を 1 日 2 回の条件で約 180 日間栽培し、地上部の成長の程度と開花の状況を確認した。



図3 開花状況を白ラベルで示した挿し木株

発根促進剤使用の C 群（左） 水のみ使用の B 群（中央）  
植物活力剤使用の A 群（右）

	茎の上部		茎の中部		茎の下部	
A群:水のみ	発根 9	開花 6	発根 10	開花 3	発根 10	開花 4
B群:活力剤浸漬処理	発根 9	開花 4	発根 10	開花 4	発根 10	開花 7
C群:発根促進剤塗布	発根 7	開花 0	発根 10	開花 2	発根 9	開花 1

図4 薬剤処理・部位別の挿し木による栄養繁殖試験

## 4. 結果

A 群（水のみ）と B 群（活力剤浸漬処理）では、両群間のいずれの部位においても地上部の良好な成長と開花が確認でき、差はなかった（図 2）。C 群（発根促進剤塗布）では、ほとんどの株で開花を確認できなかったが、株がより成長する傾向が見られた。一方、C 群では、枯死する株が少数みられた。C 群においても部位の間に差はみられなかった（図 3 および図 4）。

## 5. まとめ

スズカケソウの栄養繁殖のため、挿し木に用いる部位と薬剤処理について検討した結果、部位の別や、薬剤処理にかかわらず、挿し木により容易に栄養繁殖できることがわかった（図4）。一方、薬剤処理の条件についてはさらなる検討が必要である。スズカケソウは国内の自生地が大変限定される絶滅危惧種である。当園では本植物の保護のため、維持栽培の拡大と関係する植物園等への挿し木株供与の準備を進める予定である。